

市民連携・地域連携

荒川下流域においては、これまでも荒川水辺サポーター、水辺の楽校、河川協力団体、荒川クリーンエイド、荒川情報レポーターに代表される積極的な活動が行われてきました。

さらには、現在社会実験等により新しい水辺の活用を切り開くためミズベリングを展開しています。

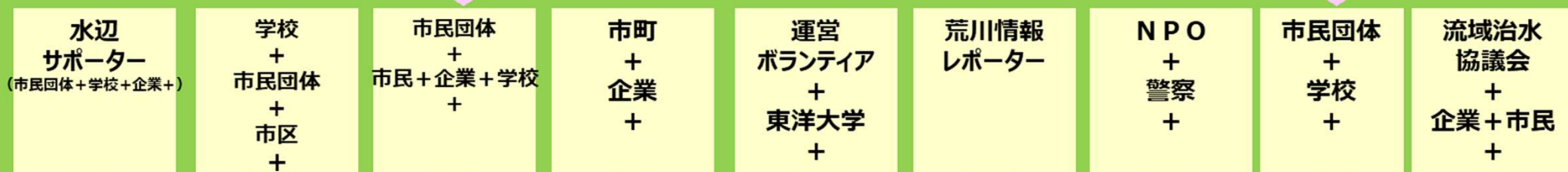
これらの活動が連携を深めて持続的に荒川を育てていくため、柔軟な社会対話に基づくパートナーシップ構築により実現できるものが「荒川下流ミズベ・グリーンコミュニティ」であり、その実現を目指す取り組みが「荒川下流グリーンインフラ」です。

荒川下流ミズベ・グリーンコミュニティ

(主体的に取り組む荒川下流パートナーズ = 市町村・市民団体・企業・学校など)

河川協力団体

あらかわ学会 + 荒川クリーンエイド・フォーラム + 川に学ぶ体験活動協議会 + 新河岸川水系水環境連絡会 +



荒川下流
自然地理管理
アダプト制度

水辺の楽校

荒川
クリーンエイド

荒川下流
ミズベリング
会議

荒川知水
資料館
(アモア)

荒川情報
レポーター制度
(旧名称・荒川市民パトロール隊)

マナーアップ
キャンペーン

新河岸川流域
川づくり
連絡会

流域治水
オフィシャル
サポーター制度

荒川下流ミズベ・グリーンコミュニティの構築を目指し、地域や市民との連携に取り組んでいきます。

- 荒川下流の自然地において、一般公募した活動団体(NPO、地元企業、住民等)や地元自治体と連携して自然地の維持管理を行う制度です。**活動団体は随時募集しています。**
- 千住桜木自然地、小松川自然地、本木自然地の3地区で活動を実施しています。
- **今後、対象となる自然地を増やし、さらに地域と連携した取り組みを目指します。**

- 会議等の実施
 - ・ 連絡会議(年1回)
 - ・ 合意締結式:新規の団体と随時実施

- 感謝状贈呈式 令和5年度で継続10年間活動していただいた2団体の水辺サポーターに感謝状を贈りました。



(株)建設環境研究所



NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム



ゴミ拾い



環境学習



草刈り

- 活動団体(32団体 令和6年3月末現在)

▶千住桜木自然地

NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
 沖昌エンジニアリング(株)
 (株)要興業
 環境戦隊 ステレンジャー
 北区ジョブトレーニングセンター
 (株)建設環境研究所
 坂田建設(株)東京支店
 西武建設(株)東京支店
 千住金属工業(株)
 大勝建設(株)東京支店
 (株)地圏総合コンサルタント東京支店
 東亜建設工業(株)東京支店
 (株)都市整備技術研究所
 日産緑化(株)
 ボーイスカウト東京連盟 さくら地区
 (株)丸島アクアシステム
 りんかい日産建設(株)

▶本木自然地

足立区本木・水辺の会
 (株)ケイミックス
 関口工業(株)
 名倉建設(株)
 (株)ノバック
 ホクト・エンジニアリング(株)
 (株)ユーディーケー
 若築建設(株)東京支店

▶小松川自然地

あおみ建設(株)
 SMCシビルテクノス(株)
 キムラ工業(株)
 里川小松川自然地協議会
 (株)新日本コンサルタンツ東京支社
 東洋建設(株)関東支店
 巴山建設(株)

- 活動地区(3地区)



○ ゴミ問題を地域共有の重要な課題として捉え、市民、自治体、国土交通省が協働で様々な取組を行う「荒川下流ゴミ対策アクションプラン」を策定し、活動を続けています。



日常的に誰もが参加出来る「いつでもできるゴミ拾い」を呼びかける看板

荒川の各地で実施される荒川クリーンエイドに国土交通省職員も参加しています。



NPO団体活動

地元住民活動

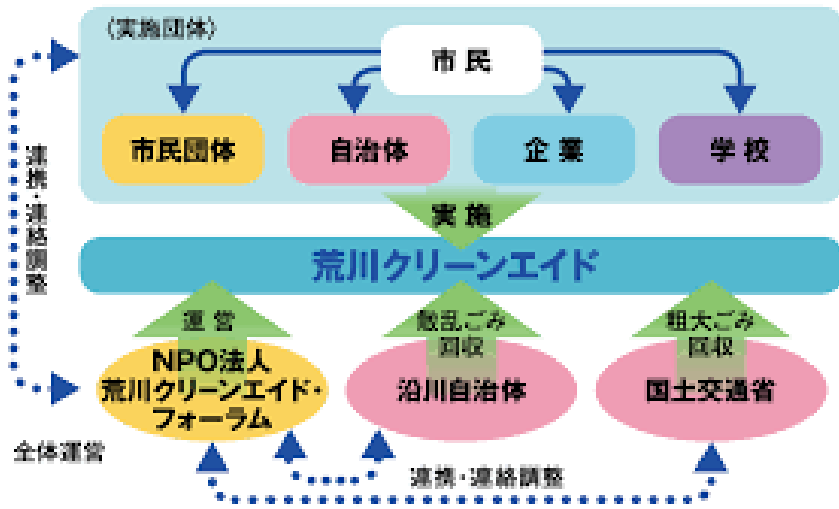
荒川クリーンエイド活動



水際のゴミを収集する国土交通省の水面清掃船

- 荒川クリーンエイドは、1994年(H6年)荒川放水路70周年を記念して始められ、R4年度で28年目。企業・市民団体・学校等がボランティアでゴミ拾いを行い国・自治体がゴミを処分する荒川下流独自の取り組み
- クリーンエイド活動の参加人数約1万2千人／年間、回収されるごみの量は約30t
- クリーンエイド活動による効果額は約20百万円／年間(28年目)

クリーンエイド活動の役割分担



クリーンエイド活動規模とごみの回収量



<スタッフが大切にすること「コアバリュー」> (HPより一部抜粋)

- ・参加者に社会の一員としての責任と自覚を再認識してもらえるような、心にも頭にも良い社会貢献の場を提供する
- ・多様なセクターと良好なパートナーシップを築き、ともに社会課題に取り組む
- ・情熱と強い意志、そして三方*よしの考えをもって、環境保全活動にまい進する

*三方: 売り手(荒クリF)、買い手(参画者、連携企業)、世間(世の中、社会)

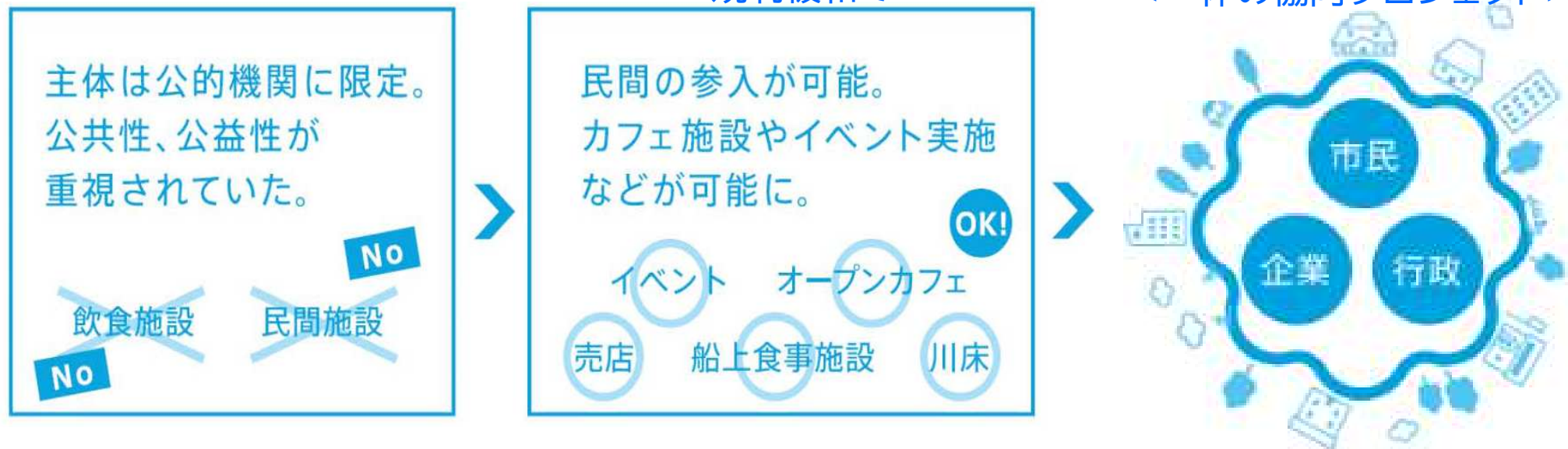
■ミズベリングのコンセプト

水辺の利用は「ダメ！ダメ！」から「できるかも！」へ

<旧来の規制>

<規制緩和で>

<一体の協同プロジェクト>



★ポイント★

3つの基本コンセプト

- ✓ まちにある川や水辺空間の賢い利用
- ✓ 民間企業等の民間活力の積極的な参画
- ✓ 市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

第12回ミズベリング荒川下流会議を令和5年3月2日に開催しました。

今回は、ミズベリング最新動向として、ミズベリング・プロジェクト事務局の岩本氏からミズベリングの最新事例やミズベリング・スポットの紹介、その後に板橋区、川口市、北区、葛飾区、東京都からミズベリングに関する取り組みが紹介されました。紹介の中では、**3月25日(土)、26日(日)**には荒川沿川の**板橋区、北区、川口市、都立浮間公園の4箇所**で同時開催イベント「**いいね荒川**」が実施されることなど、発表者の皆さんの意気込みが伝わってきました。取り組み紹介の最後には荒川下流河川事務所から流域治水やRIVASITEなど「流域治水×ミズベリング」に関する話題提供をし、その後、知花座長の進行で今後の展開について意見交換を行い、荒川の水辺の活用が進むことが期待できる会議となりました。



荒川下流河川事務所の取り組み紹介の様子



知花座長を中心に発表者で意見交換

<会議のまとめ（知花座長より）>

- ・川を利用しようと思うと、初めは**知識**から始まり、知識が**関心**に結び付き、関心が**行動**となる。大事なのは知識から始まることで、知らない**と妄想**ができない。
- ・川が好きな人は地域にたくさんいるが、あまり情報が伝わっていない。イベントを開催した際は、楽しかっただけで終わるのではなく、**やりたい人は一緒にやりましょう**を共有する場にしてほしい。



参加者集合写真 「流域治水パワー！」

※ミズベリング荒川下流会議は、住民、企業、行政が連携し、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間を、まちづくりと創出することを目的に平成26年度に立ち上げました。

水辺の楽校プロジェクト ~環境教育活動拠点~

○ 子どもたちに自然を取り戻したい！と、昔、荒川で遊んだ地元の方たちの強い気持ちから3つの「水辺の楽校」ができました。

川口市・荒川町水辺の楽校

浮間ゴルフ場の定休日を利用し、場内の池や水路で生きもののふれあい体験をしています。



「水辺の楽校」プロジェクト

埼玉県川口市
荒川町水辺の楽校
平成21年登録



北区・子どもの水辺

昭和20年代の荒川の自然の風景を再現した、大池と小池がつくられ、いろいろな年代の子どもたちが遊べるようになっています。



下平井水辺の楽校

潮がひいて広がった干潟や「干潟の生きもの観察池」で生きものがみられます。

